



藤原大征が銀賞

全日本アンサンブルコンテスト 長浜中は銅

三月二十二日の朝日新聞にこの見出しが躍っていた。知っている名前だったのと、すぐにはピンと来なかったたので記事を読んでみると、三月二十一日、東京府中市の、府中の森芸術劇場で、朝日新聞社主催の第三十八回全日本アンサンブルコンテストが開催され、愛媛県代表の「藤原大征とゆかいな音楽仲間たち」という楽団が職場・一般の部で銀賞を受賞し、中学の部では、同じく愛媛の大洲市立長浜中が銅賞を受けたという内容だった。走馬燈のように頭のなかを駆け巡ったのが、筆者二十代後半、故郷にUターンしたころ、用務員として勤務していた実姉の縁で知り合った県立弓削高校の先生方のことである。

♪ 過ぎてみれば早いもの
 当時学校では「写そう会」という写真クラブもあったりして、写真家になろうと思っていた筆者も、その縁で撮影会などに同行させていただいたことある。あれから幾星霜。すでにひとかどの人物揃いだっただ先生方も、転勤や転職で教職を全うされたり、あるいは別の職種でそれぞれ出世されていっただろう。はや定年になって十年以上は経過しているはず。つまり大方は古希を迎えられ、教え子も還暦をすぎている。学校のたまたままは今は今も昔もかわらぬが、生徒数は激減し、中身はずいぶん大変貌した。

次回の案内

藤原大征とゆかいな音楽仲間たち
吹奏楽のつどい 2015
 2015年5月4日(月・祝)
 協賛 500円
 いまばり市民劇場 主催
5月4日(月・祝) 協賛券500円
 開演 18:00 開演 18:30
 会場 今治市中央公民館4F 大ホール
 主催 今治市中央公民館



皆の心をひとつにするコンダクター 薫育よろしき元弓削高校の先生

♪ 10年以上ぶりの再会。
 次回は5月4日(月・祝)
 場所: 今治市中央公民館
 開演: 18時。協力券 ¥500

♪ 第12回ジョイフルコンサート風景 (今治市公会堂)
 団員は総勢60名を超える堂々たる楽団だ。

抵は移動する。よって皆さんのその後のことはよく存知あげていない中、いまだに細い糸で付き合い合っているのが、教師一筋、音楽指導では全国に名をはせておられるこの藤原大征(ひろゆき)さん。ほかに著名な歴史学者の山内謙松山山大学教授は、町のイベント等で来町されることも多いし、菊池さん

は、同じ町内岩城島に住まわれていることもあり、ひよいと港などでおめにかかるともある。♪ 師を慕う弟子との絆

この「藤原大征とゆかいな音楽仲間たち」という楽団は、氏の定年退職に際し、それまで滋が携わった高校吹奏楽部(小松、今治北、松山中央、今治東)の卒業生たちが記念演奏会を企画したとき命名されたものだそう。その記念演奏会には弓削でも開催され、弓削高の教え子やコーラスの皆さんも参加した。そういうば筆者も手製の歓迎横断幕など作ったりして、勝手に楽しませていただいた。

受賞のニュースはとても嬉しかったので、早速お祝いのメッセージを記した葉書を投函した。すると折り返し第十二回ジョイフル・コンサートの招待状と「通信」発行へのカンパを添えた近況が届いた。

近況には、楽団結成時、楽団名に氏の名前を入れることを拒んだものの、団員がどうしても承知しなかったため、どうせ一回りだからと承知したら、卒業生たちは「楽しかったから」と、二回、三回と毎年実施、とうとう今回の十二回目ジョイフル・コンサートを開くところまで来たのだと記されていた。

近年学校では、教師と生徒のよい関係性の構築がむづかしいと聞いたりする。すると、藤原大征さんと、その教え子たちの絆の強さは、いったい何に由来するのだろうかと考えてしまう。誠実さ、素直さ、社会悪を憎む気持ち、努力を惜しまぬ忍耐力、ほかに沢山の徳目が与つてのことだとは思いますが、楽団には若い人がどんどん参加し、入れ替わっていると聞くと、世

交代代が中々うまく進まぬ我らの現実が、何やら大切なものを見失っているのではないかと哀しく思えてくるのである。四月五日、今治市公会堂で開

第19回 因島自由大学
 どなたでも自由に参加できます

加地伸行
 大阪大学名誉教授
 日本人と先祖供養

15年6月13日(土)午後2時~4時
 芸予文化情報センター
 学費2000円(当日会場でも受付いたします)

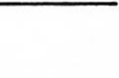
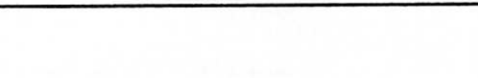
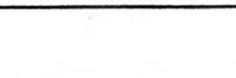
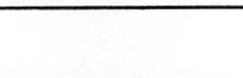
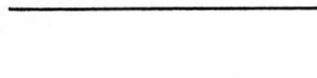
http://www.jiyuudaigaku.jp

「やつぱ、あれ私んやったワ」
 つて言われると困るから、早速油性ペンで名前を書いておこ

れ私の下駄箱に。ところが最近法事が多く、田舎の石段ばかりの墓参りにはこの安定感のある靴が重宝している。当分はこれで間に合うぞ。

5. 皮。安定感があるデザインで、年配の人のだろうということになった。黒衣の花嫁という映画はみたが、黒い靴のシンデレラ探しが始まった。結局、奈良のおぼと私の二人にしぼられ「おぼちゃん、黒い靴忘れてない?」「あんなあ、自分の靴忘れるほどボケてへんワア」とあつさり否定。結局私しかはける人がおらず、母に泣きつか

催されたジョイフル・コンサートは素晴らしかった。久闊を叙せたのはむろん、しつかり魂の洗濯もさせていただいた。





海員組合を創った男・探訪

濱田國太郎を顕彰する会 (参加自由)
(毎月25日13時～。生名中央公民館2Fで開催)
(12)

日本海員組合(現・全日本海員組合の前身)をつくった濱田國太郎は、我が町の旧・生名村の出身です。

濱田國太郎についての伝記は、実は非常に少ないです。一介のボーイから身を起し、外航船に乗り組み見聞を広め、戦前の日本海員組合を創ることに全精力を傾けた。そのことは多くの船員の経済的、地位的向上に寄与した。組合は不幸にも軍国主義の波にのまれ昭和15年解散させられ、のち国は世界戦争に突入、多くの船員が戦争の犠牲者となった。

しかし敗戦後直ちに(昭和20年)日本では唯一のユニオン・全日本海員組合が再結成され、戦後の海上労働者の権利を守る砦となり、かつ我が国の復興に大いに寄与したのであった。・・・という流れからは、さぞかし様々なエピソードあふれる生涯であつたらうと、普通は思うでしょう。だが本人が書き残すことに



はまるで情熱をもたず、また強烈な個性と相まって敵も多かったに相違なく、「わずかに『刺青を背負った組合長-濱田國太郎と船員労働運動』(井出孝・海流社 1997年)があるのみ」と、國太郎の研究者、上島町生名在住の村上貢氏の著書「海父・濱田國太郎-海員組合を創った男」(2009年1月初版・海文堂出版)の序文にあります。大部ではなく155ページ余のこの村上貢氏の著書こそが、実は現時点では最も多面的に國太郎を描き出している伝記ではないかと、日頃筆者は考えているところです。この本が故郷の多くの人々に読まれることこそ、複雑だが偉大な國太郎の理解と再発見への近道であり、またこの本を出発点として村上貢氏の目指す「近代日本の発展を、その根幹で支えてきた海に生きてきた人々の再発見と未来への学び」(同書)につながるのではないかと、深く思うところです。

※「濱田國太郎を顕彰する会」では『海父・濱田國太郎-海員組合を創った男』(村上貢著)の貸し出しをいたします。事務方までお問い合わせください。090-8247-5279 上島町弓削にある「せとうち交流館」の書架にも置かれています。

★出よう会

NPO 頼れるふるさとネット
毎月第2、第3火曜日 午後1時から3時頃まで
活動趣旨 家に籠もらない為の地区のお年寄り達の交流会。5月12日(やよみ亭)19日(土生集会所)
お気軽にお声かけ下さい。0897-72-9188

平成27年3月議会では2件の一般質問をしました。1件は、増えつつある買い物弱者、通院弱者に關し、行政はどういう解決を図るのかという主題。日頃町民の皆さんから寄せられている要望を述べ、理事者(行政)の考えを質しました。

①魚島地区住民には町有航路の運賃6割補助をしている。では町内他地区の住民が魚島に往来する際、同等の補助をすべきではないか。また岩城島(長江)・因島(土生)航路の利用増をはかるため、魚島航路のような町民専用運賃支援事業を考えないのか。

②現在の生名島(立石)・本土(三原)航路の弓削島までの延長は交渉できないのか。

③弓削島(上弓削)・尾道までの便乗可能な海上貨物便があつた。現在休止中な上で、そこを活用する上弓削・下弓削・本土(尾道)までの運航補助事業立ち上げられないのか。

行政には取り組む気がない

町長答弁は「今後も住民の利便性の維持・向上の為、町民に引き合った対応のみならず町民に寄り添った施策について真摯

議員活動録

(27) 議会議員 平山和昭

一方で、昨年6月議会で「上島町民生活航路維持事業補助金」として上程された船会社への燃料費補助事業案が議会で否決されたことをうらみ、そのせいで岩城・因島(土生)間の長江フェリーの最終便、および下弓削・因島(長崎)が燃料高騰を理由に減便したという議会批判。バカなことを言つてはいけません。この本質は、燃料費高騰ではなく利用者減です。少子化対策、移住対策、企業誘致対策、観光誘致対策、それらの実効があがらぬ事実をタナにあげ、本質をすり替えた議会への責任転嫁です。この手の本質すり替えは次の2件目の質疑

町長が多数決原理の否定をしていて、議会制民主主義がなり立つのか?



「取り組んでいきたいと考えている」という美しいものでした。しかし個々に關しては「難しい、出来ない」という答弁だったと認識しています。わが町の首脳には、何とか新しい仕組みを構築しようという意気込みをまるで感じません。

「議会内申し合わせによる半期交替の議会推薦監査委員の人事選をなぜ受け入れないのか」にも理事者の迷答弁の要旨を以下に記します。

町長答弁要旨

「地方自治法に監査委員の任期は議員から選任されるものにあつては議員の任期による」と書かれていて、私からこの任期中の人事案件を議会に對し諮問したことはない。

「地方自治法に監査委員は退職しようとする時は普通地方公共団体の町の承認を得なければならぬ」とされている。よつて今回の議会代表監査委員の辞表については受理してない」と伝えている。法的に現在でも監査委員の交代はななくその任期は継続していると判断している」(辞表を出した前期監査委員の報酬は半期で精算済で、以後ストップしている。筆者注)

「議会として提案しない理由については平成26年10月28日の全員協議会の場で詳しく答えており、現在でも変わりはない」

「この監査委員の人事案件については、議員全員が揃っていない場で決定されたものであり、私から全員が揃っていない場で再度協議をしていたらいい」と投げ掛けている」

「うちの議会は一人の数でマールになったりバツになったりする議会。一人の挙手で町の方向性が大きく変わる。だから全員がいるところで決めてくれと言つている。なぜ拒否するのか私にはわからない」

「議会の申し合わせは尊重している。ただ物事によつては法律が優先する。議会の申し合わせより、法律が優先する。法律に書かれてあるのに議会の申し合わせを優先させると言うのは法治国家として如何のものか。理由については、先程申しした、全員が揃っていない場での決定」

と云うことなので議会推薦を受け入れない理由は再度「弓削通信フェニックス」平成26年11月号・No.54」

を参照していただくとして、簡単に言えば推薦された人物が共産党籍の議員(しかも選挙区ではトップ当選だった)であるということに尽きます。

横暴な多数決原理の否定

定足数を満たした正式な議員協議会(議員14人中12人出席)での多数決(議長を除き7対4)により決定したことをやり直せなど、どこの自治体の長でも決して吐くまい。その点うちのは大したものので、法治国家を言いながら憲法すら法ではないとも考へておられるらしい。横暴というほかに、責任はそれでも議会にあると言つては、

今月のやよみ亭 映画研究会

無料4月15日(水)夜7時～



【プロミストランド】
●シェール・ガスの埋蔵量が豊富な農耕地帯。採掘権を売って潤おうとするが、実は危険な賭けだった。2012年映画。

(続編は次号)